

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・タスポの効果により、引き続き来客数が増加している。それに伴い、菓子や飲料水の販売量が増加している。気温は前年より若干低めだが、6月の低温と比較すると高く、その恩恵を受けている。	
		観光型ホテル （スタッフ）	単価の動き	・北海道観光の最盛期になり、宿泊の予約状況を見ると、道内客の動きは鈍いが、道外からの観光客は前年並みとなっている。特に、海外客については、前年より料金を押さえ気味にしているせいもあって、前年よりも増えている。	
	変わらない		商店街（代表 者）	販売量の動き	・バーゲンということもあり、かなりの販売量となっているが、商品価格も低下しているため、数が出ても売上につながらず、予算を切る日もあった。月全体をみると、売上の良い日と悪い日の両方があり、どちらともいえない状況である。
			コンビニ（エリ ア担当）	単価の動き	・来客数は前年を上回っているが、客単価が前年を下回っている。このため景気が良いのか悪いのか判断が付かない。
			コンビニ（エリ ア担当）	単価の動き	・ガソリン高騰の影響で、郊外の大型スーパーへの移動を抑えているのか、アルコールなどの単価の高い重量商品の販売量が増加している。客からも、自動車の利用を抑えているとの話を聞く。
			家電量販店（経 営者）	お客様の様子	・北京オリンピックを前にして、テレビやDVDレコーダーの需要が思いのほか悪い。
			家電量販店（店 員）	来客数の動き	・週末に行われるイベント招待会には集客できるが、平日の来客数が少ない。
			乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・生活費の負担が大きくなっていることから、自動車を買うところでない人が多い。
			一般レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・洞爺湖サミットの影響で、6月後半から7月10日までの来客数及び売上が前年の70%と大幅に落ち込んでおり、引き続き厳しい状況にある。
			旅行代理店（従 業員）	お客様の様子	・学校が夏休みに入っているにもかかわらず、申込件数があまり伸びてこない。
			タクシー運転手	お客様の様子	・原油高騰に伴いガソリンや灯油などの燃料費が上がっていることから、自家用車の乗り控えがあるかと思われたが、さほどタクシーの利用にはつながっていない。
			タクシー運転手	来客数の動き	・夏休みに入って観光客が少し増えたが、その割にタクシーの売上が増えていない。原油高騰に伴う物価高の影響から利用客が減っている。
		美容室（経営 者）	来客数の動き	・季節的な要因もあるが、3か月前と比べて、来客数、単価、売上のいずれも悪くない状況にある。	
		住宅販売会社 （経営者）	来客数の動き	・住宅業界はどん底の状態を横ばいを続けている。モデルハウス等への来場者もほとんどみられない。	
やや悪く なっている		商店街（代表 者）	販売量の動き	・消費者の生活防衛意識は依然として変わらず、業種を問わず前年を下回っている状態にある。夏物衣料も、大型店、路面店にかかわらずセールを行っているが、前年並みの売上を確保できていない。出張者が多く訪れる屋台村も晩酌程度の利用に過ぎず、各店が前年割れの状態にある。注文したおにぎりをホテルに持ち帰り食べる客も増えている。	
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・夏物シーズンの真っ最中であり、浴衣を中心に若い人向きの商品の動きは前年と大差がないが、中高年向きの少し単価の高い商品の動きが良くない。生活防衛意識が強まっている印象がある。	
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・客の動きみると、安い物を探して歩き回る傾向が出ている。	
		一般小売店〔土 産〕（経営者）	来客数の動き	・観光客向けの仕事をしているが、洞爺湖サミットの影響からか、観光客の動きが相当悪い。	

一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月は各地で夏の祭りが行われており、例年であれば売上が伸びてくる時期であるが、今年は今一つ売上が伸びてこない状況にある。天候も良い状態で推移しているにもかかわらず、ビール等の飲料水の売上が不振である。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・季節商材の値下げ時期だが、依然として、来客数の減少が続いており、厳しい状況から抜け出すことができない。特に50～70才代の客が減っており、生活環境が厳しい様子がうかがえる。
百貨店（売場主任）	単価の動き	・全体的に中元商品の客単価が低下している。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・7月に入り、セール立ち上げ後の1週間こそ勢いがあったものの、2週目以降は売上が前年を大きく下回っている。来客数が減少傾向にあるうえ、客単価も低下傾向にある。価格志向の代名詞とも言べきセールの不振は、消費者の購買心理の冷え込みが更に強まっていることを表している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・酒や飲料といった夏物商材の動きが今一つ良くない。7月は販売量が大きく伸びなければならない月であるにもかかわらず、6月並みの数字となっている。
スーパー（役員）	単価の動き	・石油製品の値上げが今後も続くことと誰もが思っていることから、買物は価格の低い商品に集中している。価格の高い商品については客離れを感じる。
スーパー（役員）	単価の動き	・来客数の増加により、既存店ベースの売上は前年から10%台の増加となっているが、ここ3か月、1人当たりの平均買上点数が月を追うごとに減少している。今月の買上点数は前年を1.2%下回っている。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・タスポの効果で売上の増加が続いている。しかし、ガソリン価格の高騰、物価上昇の影響により、客単価は低下している。周囲の一次産業も厳しい状態が続いており、今後は厳しくなる可能性が高い。
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・今月は、中旬の気温上昇の影響でエアコンを中心とした季節商材の売行きが好調であった半面、期待していた薄型テレビやDVDレコーダーの売行きが予想以上に悪く、全体としては前年をやや下回っている。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・燃料高の影響で買い控えが生じている。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今月は洞爺湖サミットの影響があり、観光客の入込数は前年から10%の減少となっている。特に上旬がひどく悪かった。
高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・今夏は、6月中旬以降、ビール客が一時的に増えていたが、大通公園のビアガーデンが始まってから客足が一気に遠のき、例年と同様の状態に戻ってしまった。大通公園のビール客はすすきのへ出るケースも少なく、タクシー運転手にもその効果は出ていないようだ。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・国内ツアー客の動きが良くない。地元大手建設業の倒産があったこともあり、地元からの集客も悪く、とにかく客が動かない状態にある。アジア人観光客の集客も良くない。まずまずなのは、夏休みの家族個人旅行だけである。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・原油高騰の影響はかなり大きく、観光や業務性のパックツアーを中心に落ち込みがみられる。海外旅行はアジアを除き、かなり悪化している。北京オリンピックの影響も否めない。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年と比較して明らかに受注量が減っている。洞爺湖サミット開催による道内旅行の出控えとガソリン価格高騰のダブルパンチにより、道内宿泊券の取扱は大いに苦戦を強いられている。海外旅行の燃油サーチャージによる影響は言うまでもない状況である。
通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・原油高に起因する物価上昇により、通信機器の信頼性よりも価格を重視する客が増加しており、安価な通信業者へ客が流出している。
観光名所（役員）	来客数の動き	・7月に入り、洞爺湖サミットによる交通規制強化をきっかけに、団体客、個人客共に大幅に落ち込んでいる。海外客はまずまずの状況で推移しているものの、来客数が前年を下回るの確実な状況である。

	観光名所（職員）	来客数の動き	・3か月前と比べると、利用者数が252%の伸びとなっているものの、閑散期に比べての比較である。前年との比較では、86.9%となっており、ガソリンの高騰及び物価高騰の影響が随所に出てきている。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・年金生活者の来店周期が以前より長くなってきている。医療、福祉等の将来への不安感が増大しており、支出を抑えているように感じられる。特に、最近では行政への不満の声が多く聞かれる。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・北海道の景気が下降線をたどっているなか、ガス・水道・電気といった公共料金や灯油、ガソリンを始めとした物価も値上げが続いており、景気の悪さに拍車がかかっている。	
	設計事務所（職員）	お客様の様子	・複数の観光ホテルの新築に対する融資が保留され、事業着手が延期されるなど、民間工事が少ない。わずかに国の関連機関の工事があるのみで、建設工事の総量が極めて少なくなっている。	
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・生活必需品の動きが鈍く、客単価の低下傾向が強まっている。商店街の通行量も少なくなっており、各店の来客数も減少している。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は前年を保っているが、商品単価が値上げの影響で上昇している一方で、販売点数が減少しており、必要最低限の買物になっている傾向がある。特に高額商品、ぜいたく品の販売動向が悪い。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は前年比95.7%と非常に悪い状態にある。	
	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・近ごろ、あらゆる生活用品の価格が上昇しているため、消費者の買い控えが多くなっている。	
	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・原油高騰、食品値上げの影響で全体的に消費が落ち込んでいる。	
	その他専門店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・来客数が数百人規模で減少している。これだけの来客数の減少は、これまで経験がなく、買い控えの影響だけとは思えない。	
	その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が高止まりしているため、消費者の節約志向により、ガソリンの販売量が前年から大幅に落ち込んでいる。また、車のメンテナンス関連の売上も落ち込んでいる。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外旅行の取扱が前年を20%ほど下回っている。並びに国内旅行もお盆、夏休みの取扱が前年を20%ほど下回っている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・7月は洞爺湖サミットの影響でタクシー利用が増えることを期待したが、思ったほどではなかった。洞爺湖サミットが終了後の観光客や地元の人たちのタクシー利用は前年を大きく下回っている。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・石油製品を始めとする諸物価の値上げラッシュにより、タクシーの利用客が激減している。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・夜間の酔客が減少しており、売上が半減している。	
設計事務所（所長）	競争相手の様子	・今月に入って、道北の大手建設会社が倒産している。建築を取り巻く環境はますます悪くなっている。業者が少ないパイを取り合っている状態であり、収益を確保しづらくなっている。		
企業動向関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	輸送業（経営者）	取引先の様子	・依然として燃料の高騰が重荷になっているが、ここ1～2か月、輸送量は増えている。
	変わらない	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・得意先の製紙工場では一部減産しているが、製品価格の値上げが浸透してきている。飼料工場は主原料のコーン価格が低下傾向にあり、現在の価格は最高値の75%程度まで下がってきている。飲料工場は本州圏の猛暑により、輸送量が順調に推移している。
		司法書士	取引先の様子	・不動産の売買取引、住宅、アパートなどの建物の新築のいずれにおいても低調である。
	その他非製造業【鋼材卸売】（役員）	取引先の様子	・遅れていた鉄骨建築物や環境改善プラント業の受注が活況を呈しており、仕事量は確実に増えてきているが、原材料の相次ぐ値上げと限定的な品薄状態のため、仕入単価が上昇しており、収益改善に結び付いていないのが現状である。	

	やや悪くなっている	食料品製造業（団体役員）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・原油価格の上昇に歯止めが掛からず、高級品や高価格品、嗜好品の買い控えがみられる。消費者が求める食料品は、節約の動きが強まっていることから、低価格のものが中心であり、特売での購入も増えている。また、食料品製造業においては、使用する乾燥機器の燃料消費量が多いこともあり、燃料高騰が深刻な影響を与えている。
		食料品製造業（役員）	受注価格や販売価格の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料価格が引き続き高騰しているうえ、製品の販売価格の値上げが思うように進んでいない。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・景気の冷え込みにより、耐久消費財の買い控えが進んでいる。特に一般消費者においてその傾向が強い。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・建築基準法の改正に伴う住宅を始めとする建築物の減少、鉄鋼を始めとする資材の高騰、燃料費の大幅な上昇、公共事業の減少などに加えて、談合の発覚による業者の指名停止もあり、建築業界ではどこが倒産してもおかしくない状況にある。こうしたなか、道内の大手建設会社が倒産しており、それ以外の中小企業や一部大手にも同様のうわさが出ている。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先の予算縮小が顕著にみられ、価格に対して非常にシビアになっている。
		金融業（企画担当）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・設備資金の需要は少ない。原材料価格は上昇が続いているが、販売価格への転嫁は一部にとどまっている。建設業界は、公共工事減少の影響で大型倒産が発生するなど業況は厳しい。個人消費は、所得が増えないなかで生活必需品が値上がりしているため、家庭の生活防衛意識が強まっており、低迷している。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・企業において設備投資への意欲が感じられない。
	悪くなっている			
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている			
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の求人広告件数に大きな変化はみられないものの、大手派遣会社の取扱件数が約2割減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新規求人数は前年比で11.4%減少しており、4か月連続で前年を下回っている。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・企業業績の先行きに不安が増しているなか、売上を作る人材、会社の経費、無駄を軽減できる管理系の人材の需要は増えている。しかしながら、採用基準は以前にも増して高くなっており、かなりのスキルを持つ人材でなければ、なかなか採用に至らない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・月間有効求人数は、12か月連続して前年を下回っており、特に最近3か月は、10%以上の下げ幅となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の新規求人数は、前年比で20.1%の減少となっており、前月比でも7.3%の減少となっている。一方、新規求職申込数は、前年比で6.5%の減少となっており、前月比でも14.6%の減少となっている。この結果、月間有効求人倍率は0.41倍となっており、前年比で0.04ポイント下回り、前月比で0.01ポイント下回っている。
	悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・求人数は前年から2割以上落ち込んでいる。全業種にわたって前年比がマイナスとなっており、過去5年間では初めての状況となっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・募集広告の売上が前年から約2割の減少となっている。地元の農産物加工・選別業者が、派遣社員の受け入れを例年よりも極端に縮小したことに伴い、大手派遣会社からの募集広告件数が大きく前年を下回っている。